

# ゴマオカタニシ

*Georissa japonica* Pilsbry  
アマオブネ型目・ゴマオカタニシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

評価するだけの確認情報が少ないが、今後の動向に注意を要する。

## 分 布

本州、四国、九州等に分布する。県内では、越前町や敦賀市等の里山の自然林に分布する。

## 種の特徴

殻高 2.2 mm、殻径 1.6 mm 程度。殻は淡橙色で、卵形塔状で硬質堅固である。蓋は亜旋型、半円形で薄質革質。山麓の谷川沿いのササ類や小石まじりの落葉下に生息する。

## 生息を脅かす要因

樹木の伐採等による森林の減少が要因である。

参考文献 環境省編 (2014a)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1985)、東 (1995)、愛知県 (2009)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○	○	○								

# サドヤマトガイ

*Japonia sadoensis* (Pilsbry & Hirase)  
新生腹足目・ヤマタニシ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

評価するだけの確認情報が少ないが、今後の動向に注意を要する。

## 分 布

関東以南の本州、四国、九州北部に分布する。県内では、過去に大野市で確認されているが、近年の記録はない。

## 種の特徴

殻高 5 mm、殻径 6 mm 程度。殻は円錐形で、薄質でもろい。殻色、殻毛の色ともに黒褐色である。広葉樹林内のれきの上に堆積した落葉下でやや乾燥した場所に生息する。

## 生息を脅かす要因

分布が局限しており、環境改変、植生の遷移の進行や植生の変化により、絶滅の危険性がある。

参考文献 環境省編 (2014a)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

# イツマデガイ

*Blanfordia japonica* (A.Adams)  
新生腹足目・イツマデガイ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

## 選定理由

福井県には地方種の小型のエチゼンイツマデガイが、敦賀半島以北から越前海岸の自然林に生息する。公園化が進み、生息個体群サイズが小さく、個体数が減少している。ヒメオカマメタニシは同種異名。

## 分 布

本種は、北海道南部から佐渡 (タイプ産地) から本州 (福井県) の日本海要素型分布で、敦賀湾沿岸域が南限である。敦賀半島以北から越前海岸の自然林に分布する。

## 種の特徴

殻高は 3.7 mm ~ 7.2 mm、殻径 4.0 mm ~ 8.2 mm、6 層。雌が雄より大きい。殻はやや長卵形で堅固。黄褐色から栗褐色の殻は有光沢。各層はよく膨らみ、縫合は深い。蓋は小旋型。雌雄異体。頭部形状、背部陰莖は一応に扁平。

## 生息を脅かす要因

福井県越前海岸の雑木林床、雑木林に接した下草の間や畑地の石垣の隙間、崖の岩場に生息するため、海岸道路や宅地・畑地の拡張・都市化、除草剤・殺虫薬散布の影響を受けている。

参考文献 江川 (1985)、湊 (1987a)、黒田 (1933)、福井県自然環境保全調査研究会編 (1998)

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○	○	○			○		○				○